

## 町部地区 市政懇談会

日時 平成 19年 8月 8日 19時から

会場 市民集会所

参加者数 60人

### 懇談 (質疑応答)

町部地区会長より 挨拶の中で

駅南の区画整理事業の進捗状況が遅い。30年近くになる。パソコンも5年も経てばメーカーからそろそろですよと連絡が来る。早く具現化して欲しい。

市長 行政報告の中で説明

完成を平成 21年 3月と予定しています。当初の 80億円が 160億円、当初の倍となりました。400戸のうち 399戸が移転、白翁会については移転がありません。21年の 3月に向けてラストスパート、きちっと進めて行きます。そのために、市民の皆さんのご協力をお願いします。今年度に駅前通り線を完成、来年度は駅前広場の整備を行います。21年 3月までには事業を終了させたいと思っております。

柳町 男性

都市計画のなかで、駅の方に目を向けてくれるのはいいのですが、駅の中で先般、障害の 2級を持っている方が、階段から落ちましてそのまま入院されました。私もそのところに立ち会っていたんですけれど。駅の中にも目を向けてもらって、昇降設備は必ず必要になってくると思います。私も電車通勤をしていますけれど、あの階段では、いつか大きな怪我をされる方が、無きにしも非ずだと思っていますので、橋上駅は無理だと思いますが、昇降設備を早めに、バリアフリーという時代が、盛んに言われていますので、お願いできたらと思っています。

市長

駅構内の件ですが、駅前広場の方はバリアフリーで、今、関係者の皆さんの意見を聞きながらやっています。お話があったのは中のことだと思いますが、今、JRと県と市と話をしまして、平成 20年、21年度の 2年間掛かりますけれど、エレベーターを設置する話を、JRと県と協議をしております。JRの駅広が出来ると少し後になると思いますが、エレベーターの設置について、予算化して進めていきたいと思っています。

二丁目 男性

よりよい環境づくりをいかしたまちづくりということだったですけれども、菊川で一番大きな区画整理事業も進んできて、まだ過渡期的な部分があるかと思いますが、潮海寺堀之内線が開通しまして、車の交通の流れがものすごく変わりました。区画整

理当初の頃は、潮海寺堀之内線というのはなるべく車のスピードを抑えようと言うことで、ニコレット道路の計画だったと思うんですけども、それが警察の方が許可しないということで、今、非常にスムーズな道になってしまいました。気になっているのが、今までの本通り商店街を含めた街のつくりは、だいたい南北に人の行き来があって、東西には車が通らない状態だったですけども、あれが幹線道路のようにまちを2分してしまって、今現在、本通りを歩いて来てあそこを渡るのがものすごく怖い状態、この間、市の方に出席講座で来ていただいた時に、あそこに信号を付けてもらうわけにはいかないのか、ということをお聞きしましたら、警察の方で交差点が近すぎて、無理そうだということだったんですけども、街の中にああいう広い道が出来てしまうと夜中にクラクションを鳴らす音が聞こえてきたりしますので、なにか良い方法がないか、逆にこの間は、市の方に聞いたんですけども。市民の方でも協力出来ることでしたら、警察の方へ交渉していただけるようなことが出来たらなーと思うんですけども、その辺いかがでしょうか。

市長

あそこについては、心配をしています。供用開始が6月1日、事故があつてはいかんとということで、交通指導隊の皆さんの協力をいただいたり、警察、職員を出しました。東へ向かっていく車が非常に多く、南北の道も何本も通っていますので、心配しています。まだ、中央通り線が完成していませんので、皆さんに迷惑を掛けています。交通状況についてはまだ完全ではないと思いますので、もう一度地元の皆さんから声があったことは公安委員会、警察へ話しをさせていただきます。担当課も、区画整理室とか安全課とか色々な課にまたがっているものですから、道路交通につきましても、駅前広場が出来る前位までには、きちっと対応していきたいと思います。

日之出町1 男性

下水道事業についてお伺いします。このまちは周辺に比べて遅れて下水道が一部供用開始になっているようですが、中心部といいますが、駅を含めてあるいは役場を含めた中心部の下水道整備の計画はどうなっていますか。聞くところによりますと、区画整理事業で合併浄化槽を補助金を出して推進したといいきさつがあります。合併浄化槽を推進した結果、区画整理区域内では、下水道が必要ないといいますが、加入者が少ないだろうと言うことで、後回しになっているのではないかと思います。より良い環境づくりの面から言っても、人口密集地のここは、優先的に下水道を整備すべきだと思っていたんですが、例えば蛸が自分の足を食ったようなもので、補助金を出して、合併浄化槽を推進した結果、下水道が遅れるという矛盾した結果になっていると思います。早急に整備をお願いしたいと思いますが、予定をお聞かせ下さい。

市長

下水計画は、市にとりまして環境での重要な施策のひとつだと思います。平成10年に下水道事業に取り組まして、9年目になります。その当時は、下水は合併浄化槽と単独浄化槽と汲み取りの3つだったわけです。当時、合併浄化槽を入れていただく場合は、市と国から補助金が出て、合併浄化槽にしてもらいたいというような、誘導的な国の施策がありました。駅南の区画整理事業が、本格的に始まったのは平成2年ですから、まだ下水の計画はありませんでした。そういったことで、言われるように一緒に事業がスタートすれば下水の管を入れて下水計画が出来たんですが、国の補助事業であり、認可事業ですから、計画が10年後であるものを、今のうちから管を入れるということは、補助事業として出来ません。そこらへんは矛盾とかわかりませんが、そのような事実があるということは、おわかりいただきたいと思います。投書、お手紙をいただき、私も読ませていただきましたが、境界のところにつきましては、これから担当課で話をしまして、出来る限りの配慮というものをしていきたいと思いません。今、言いましたように13.7haのなかに、同時に下水の管を埋めておくという事が出来なかった、それは財政的というよりも、補助事業としてそれが取り入れられなかったという事実があるということでもありますので、その点をご理解いただきたいと思いません。公共下水道事業は、全市で266haを第1期、第2期工事として今、取り組んでおります。第3期事業をどうするかということについて、大きな事業ですから、これから財政の許す限り、菊川市は公共事業でやっていくのか、あるいは合併浄化槽でやっていくのか、あるいは農村集落排水でやるとか、色々な環境政策がありますので、今後菊川市としての方向性をきちっと出していかねばならないと思っております。

柳町 男性

学校の体育館、校舎の耐震とか色々な設備にお金をかけていただいています。私達、堀之内小学校の体育館を利用させていただいています。将来的には避難所になるかもとも思いません。震災があった場合を想定しますと、体育館の中は暗いです。床も滑ります。小学校の校長先生に聞くと、堀之内小学校については、プールと体育館が課題に挙がっていると聞きます。どちらもやってもらいたいんですが、スポーツ振興ということで、水銀灯のあるところの体育館に行くところですね。堀之内小学校へはみんな来ません。暗すぎて、怪我をされた方もいます。私も目の手術をした後、どうしても暗さが負担になります。校長先生に聞くと、体育館、プールが課題と聞きます。水銀灯のある体育館が多い。小笠も大事ですが、菊川にも目を向けて下さい。

教育長

教育委員会の諸行事に対しまして、色々なご協力をいただきありがとうございます。おしゃったことはその通りだと思います。私も過日、教育委員のみなさんと一緒に全

小学校、中学校、そして幼稚園、保育園を回らせていただきました。そういう時に、それぞれの学校から色々な問題を要求されますが、今回は特にプールと体育館について、大きな声で言われました。特に、体育館については、かまぼこ型の体育館が内田と六郷と堀之内にあります。そこでは特に言われましたし、堀之内小に行った時には、プールから水が漏れていましたし、体育館に行きましたら、おっしゃるように滑りますし、電気も水銀灯ではありませんでした。戻りましてこれからどういうふうにしていくのか、部長に聞きましたら、計画的に進めていくわけですが、特に堀之内小の体育館につきましては、なるべく早くとは思っていますが、そうは言っても今年着工して来年出来るという計画にはなっていません。全体のバランスを見ながら、早くやりたいとは考えています。ただ、回って気になったのは、それぞれの学校の先生がどうして、小笠地区だけは北小の体育館とか、岳中の体育館とか、来年は東小の体育館をやるんですか、どうして菊川地区の方はやってもらえないんですかという話がありました。私もその通りだなーと思っていますが、今までの計画のなかで、進んで来ています。菊川地区について何もしていないわけではありません。例えば加茂小の増築などをやっていますし、計画的に進めて行きたいと考えております。今、おしゃったことが私にとって一番大きな課題だと思っております。是非、お力をお貸し下さい。

初咲町 男性

先程の説明で、民生関係が36億円、23%ということで、大変な社会になってきたなと思います。今年の1月21日の新聞で給食費の未納の問題が出ました。あの時、菊川はわずか23万円、掛川は149万円、御前崎市が269万円ということで、ニュースになったわけですが、その後、5月に保育料の未納、支払わないのが、菊川214万ですか、掛川が100万円位、御前崎は3万4千円、御前崎は1月の時に、県下でトップだったのに、すごく減りました。この給食費と保育料の未納ということは、将来生きていく子供達の行っている学校、園で、しかもお父さん、お母さんは若い、それが未納とか納めなくてもいいということは、納税意識に影響するし、大きな問題だと思います。菊川ではそれがどうなっているのか。これを私は新聞を通して知っているわけです。広報も見ていますし、議会だよりも見ていますが、そういうことについての具体的な数字の裏づけのついたニュースは、私は新聞からしか知りませんので、どうなっているのか。もう少し大きく考えますと市税が、先程の話だと71億円あるわけですね。そうすると市税の未納も問題になると思います。国保についても当然納めるべきもので、私達は納税の義務があるわけですから。その未納問題、保育料、給食費そういう納税意識を育てていかないと、市も厳しくて、市長を始めご尽力をされていることは、十分わかるんですが、そういうことを市民に訴えて、少ない収入でも払うべき税金はきちっと払わなくてはいけないというモラルをしっかりと高めていくべ

きと思っています。市税についてはどの位未納があるか、国保はどうか、介護保険はどうか。保育料は給食費はどうか。それから、それについての呼びかけとか、PRとか、市によっては赤い封筒でやっているとか、未納の場合はいざとなれば訴えるとかいう話も聞いています。それが良いか、悪いかはわかりませんが。財政が破綻して、夕張りみたいになっては困りますので、訴えて納めるべきものは、きっちり納めて、権利を主張することと、義務は同じことですから。私はそう思っていますから。具体的な未納の状況と、今後どういふうに取り組んでいかを、お聞きしたいと思います。

市長

菊川市においても未納はあります。税金もあり、給食もありますし、住宅もありますし、国保も介護も下水も、残念ながら未納はあります。特に市税におきましては5%位の未納があります。また、国保も同じように未納があります。私どもが、一番頭を痛めていることではありますが、しかし、税金というのは納税の義務がありますので、納めていただいている方のことを考えれば、私達は100%課税をして徴収しなければならない責務があります。当然、菊川市におきましても、対応とか、徴収の仕方とかいうものをきちっとしまして、市民の皆さんに不公平感、あるいは税に対しての不信感を持たれないよう、きちんと取り組んでまいります。給食がどの位あるのか、国保がどの位あるのか、数字は具体的にわかりませんが、いずれそれらについても公表して、そして、市民の皆さんに理解いただくということをしていかななくてはならないと思います。先般、島田市と御前崎市では給食費をやったわけでありすけれども、菊川の場合は給食費につきましては、低額だったわけでありすので、職員が話をして、かなり徴収させていただきましたが、一番大きなものは、市の税金でありますから、それについてまず最初にきちっと対応を進めて行きたいと思ひます。私達としても、1%でも徴収されるように、これからも取り組んでまいります。

教育文化部長

給食費の関係について、私の方から説明いたします。お話がありましたように、平成18年度の滞納は新聞紙上に発表されておりましたとおり、20万6千円の滞納があります。今、給食費を納めていただくためにどうしているかと言いますと、学校の後納金、いわゆるPTA会費とかそういったものと合わせて学校の方で徴収していただいております。そんな関係で小笠地区はゼロであります。菊川地区でそれだけあったということです。給食センター職員、学校の先生方と協議するなかで、分割でもいいですから、納めてくださいとお願いをしております。その結果、今現在、20万6千円ほどあったのが、15万3千円ほどに減ってきておりました、学校の協力もいただくなかで、進めております。納めていただくなかで、色々な家庭の事情がありますので、苦慮するところもありますが、地道な努力のなかで、納めていただくように、PRをし

ているところであります。

司会（企画政策課長）

市長から話がありましたように、公表すべきは公表していくということに、なろうかと思いますが、よろしいでしょうか。

青葉台 男性

コミュニティバスについてお尋ねします。昨年の市政懇談会の議事録を見ましたところ、コミュニティバスについての色々な意見が寄せられていました。実際の運用が始まりまして、また広報には1ヵ月毎の乗車人数が掲載されるようになっておりますけれども、全体的にはバラつきがあるように感じます。私がこの前、朝乗ろうとしましたところ、9人乗りということで満員でして、倉沢の方から来る線に乗れなかったということがありました。検討されてワゴンタイプで7路線の運用という形になっているんだろと思いますが、そのなかで申し上げたいことは、路線設定が分かりにくい、くねくね回っていくということで、循環になっていないということで、コミュニティバスと福祉バスを統合して、福祉の機能を持ちつつ、コミュニティのなかで、皆さんが自由に乗れるバスにしようと思ったはずなんですけど、どうも福祉の要素が強くて残っていて、時間帯につきましても、朝は早く、夕方ではなく、3時間くらいで病院の方の都合もつかないよと言う方もいらっしゃるという話は、方々で出ております。近隣の市で見ますと掛川市は、さらに面積が広いわけですが、3路線が現在設定してありまして、循環の形で40分間隔で朝の7時から夜の8時まで、運行している状況であります。今日、私用がありまして、掛川に行ってきましたが、やはり見てみますと夏休みという時期もありまして、商業施設のところで乗り降りされたり、学生さんを含めて20名位の方で満員という状態で利用されておりました。どういった運用の方法が良いのかは各地域でバラバラではあると思いますが、菊川という狭いコミュニティのなかで、路線、市道も限られているとのことですので、車の総量を減らすという意味でも、これからの高齢化社会を見据えて、コミュニティバスへの公共交通の転換を考えていくのであれば、さらに充実したバスの運用のあり方を検討していく価値があるのではないかと思います。その辺りを含めまして、市長さんにコミュニティバスのあり方、コミュニティのなかでの公共交通のあり方について、お考えを伺います。

市長

コミュニティバスは合併する時に、新市まちづくり計画のなかの、ひとつの大きなテーマだったわけです。当時、菊川では福祉バス、そして小笠では福祉タクシー券という2つの制度があったわけですが、それをひとつにするということにもすごいエネルギーと時間と知恵を出し、市民の皆さんが考えていただいたのが、このコミュニティバスです。タクシーと福祉バスの2つをひとつにするという非常に難しかったことを、それぞれの皆さんが、1年間かけて、4月の1日のスタートに向けて大変なご努力を

していただいたことに、私は大変感謝しています。今までも利用者の皆さんから、もっと近くで止めて欲しいとか、もっと本数を増やして欲しいとか、土曜日、日曜日にも走らせて欲しいとか、循環型で、公共施設にもっと行けるようにしてもらいたいとか、色々な要望を私も聞いています。しかし、合併した当時に市民の皆さんが、どのようなコミュニティバスが一番良いのか、各界、各層、福祉関係の方とか、学校関係の方とか、自治会関係の皆さんが、お話ししていただいて、そして集約されて結論が出たのが、この4月1日スタートした、コミュニティバスだと理解しております。したがって、言われましたように、今がベストだとは思いません。しかし、今のやり方は、今の時点においては、一番いいし、これだけたくさんの方に乗っていただいているというのは、私は評価出来ることだと思います。秋から今年一杯にかけまして、このコミュニティバスを環境に優しいコミュニティバスにするにはどうしたら良いか、周遊型にするにはどうしたらいいのか、あるいは、子供さんがもっと乗れるようにするには、どうしたらいいのか、色々な課題がありますから、これからもっと研究して、県下に誇れるコミュニティバスにしていきたいと思います。ただ、ひとつ失敗したことがあるんですが、それは自動ドアでないということです。手動です。乗っている皆さんから、なぜ自動にできなかったのか、運転手さんがかわいそうだという声があります。スタートした時に、いかにコストダウンしてやろうかという思いだったものですから、勘弁していただきたいと思います。また、乗る時は自分で開けて、閉めて、お年寄りの人が乗るときには、是非開けてやって下さい。

それから、乗れなかったということですが、乗れなかった場合は、運転手が連絡をすることになっています。その電話が地域支援課に来れば、直ぐに他の車で迎えに行きますので、その時には、意思表示をしていただければ、乗れなかった場合には、お迎えに行きますのでよろしくお願いします。